
イッカン

鬼三

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

イッカン

【Nコード】

N0065Z

【作者名】

鬼三

【あらすじ】

異世界で英雄として生まれるはずの主人公が日本で育って大人になつて神様からもとの世界に戻される話
主人公は変態でアホなところがあります
主人公最強もの予定です

始まりは理不尽（前書き）

ストレス発散用の小説です

内容に矛盾や強引な設定とかがばりばり出てくる予定です
更新は鈍行です

始まりは理不尽

俺は森の中で世界の理不尽さを嘆いた。

突然頭の中で声がした。

「君は手違いでこの世界に生まれ落ちてしまった。今まで発見が遅れて申し訳ない。今から本来在るべき場所で生きてくれ。」

「はっ？手違いって何？」

頭の中に響いた声に反射的にそう返すと

「もともと君は人々を苦しめる魔王を滅ぼす英雄として生まれるはずだったのだが一部の人間が想定外に異世界から勇者召喚とやらをしてしまい運命がずれてしまったのだ。」

「はっ？」

「お詫びに英雄としての才能の他に今までの記憶と君がいるべき世界での知識となにか便利な力を与えよう。」

「えっ？ちょ、待つ…」

そして俺は異世界トリップ（異世界生れでもとの世界トリップ）することになった。

この条件ならライトノベルや携帯小説によくある定番の話だっただろうしそうゆうのを読むのが好きな俺も文句をいいながら楽しんだらう。

世界いや神は理不尽で個人に対する思いやりが足りないと思う。何故ならば俺の頭で神の声が響いたとき俺はシャワーを浴びていたのだ！森の中で一全裸 生まれたままの姿 でずぶ濡れの俺は世界の理不尽さを嘆いた。このままではイロイロとマズイ。だって風邪

を引くかもしれないし。

俺は犬・猫のように体を震って水気を飛ばした。

（とりあえずタオルとか欲しいな。）

そんなことを考えながら俺は手頃な葉っぱを探す。恥ずかしいから早く隠したいのだが小指の爪程の葉しか見つからない。

（流石にこれでは隠せないな。）

そうこうしている間に近くに人の気配を感じた。

（ヤッバ！マツパはマズイって！）

人の気配はさらに近付いてくる。

こっそりと気配のした方向を覗くと、そこには藤簾にキノコや木の実を入れて持っている若い女性がいた。

（どうしよう！？はっ！良いこと思い付いた木を隠すなら森の中！
だったらアレはキノコの中に隠せばいい！俺って頭いい！）

周囲を見渡すと丁度キノコが生えている。俺はそこで寝そべり気絶した振りをした。

（もしかしたらキノコと間違われて手に取っちゃうかもな、まあ洗ったばかりだから大丈夫だろ。）

しばらくするとすぐ近くからガサッガサッという音がした。

（優しくしてね。）

何て事を俺が思っていると、

「き、きゃ~~~~~!!」

ドサッ。

（ん？ドサッ？それにきゃ〜って何で？今はまだ可愛いモードだと思っけど…。）

うつすら目を開けて確認すると女性は倒れていたどうも気絶しているようだ。

気絶した振りをしていれば介抱するなり人を呼んできて介抱するなりしてくれると思ったけどまさか気絶されるとは…、非常に困った。体を起こそうかと考えていると、ガサリガサリと近くで物音が慌てて目を瞑る。

すると俺のキノコの近くで生暖かい空気を感じたと思った瞬間生温い湿ったザラザラしたものが俺のキノコを触った。

（ちょ！積極的すぎでしょ！どんな子かな？）

そう思った俺はまた薄目を開けて確認してみた。するとそこには茶色の塊があった。

（茶色のロングヘアーかな？できれば顔を確認したいな！）

もっと詳しく調べる為もっと目を開けて見るとそこには、

（…あつとこいつはよくあるシチュだな。森の中で熊さんに出逢うかあ。）

俺は恐怖のあまり逆に冷静になった。熊は四つん這いの状態で2、3M位あるように見える。

（でかつ！俺のキノコは餌ジャナイヨ！AXO使ったのがダメだったの？あれ熊にも効くんだ！）

現実逃避しているときではない何とかしないと！俺のキノコが！

（そういうえば英雄の力とか何とか便利な力とか言ってた気が…）

そんなことを考えていると不意に頭の中に、

ジャイアント・ベアー（赤子）

体力 10000

攻撃力 4000

防御力 3000

野生 95000

知能 15

素早さ 3500

というのが浮かんできた。その後、

山田 太郎

体力 7500

攻撃力 2800

防御力 2200

野生 2

知能 1800

素早さ 5900

と浮かんできた。

（ナンダコレ？この数字信用できるなら逃げ切れるか？）

このままだと熊に食べられてしまう（二重の意味で）

俺は逃げることを選んだ。

丁度その時熊が俺のキノコを食べるのを諦めたようで他のキノコの方に行った。

（チャンス！）

俺は急いで立ち上がった。

熊は直ぐに反応し立ち上がった。

（でかつ！4M位か！とりあえずこっちに注意を引きつつここから離れないとあの女性が危ないな。）

そして俺は熊から全裸で逃げ出しはじめた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0065z/>

イッカン

2011年11月30日16時55分発行